

1 学校の楽しさ、学校で楽しいところ（小学生・中学生・高校生等）

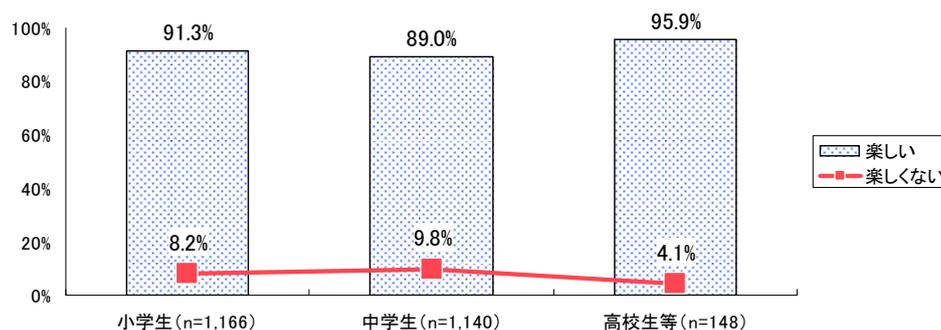
（詳細は下記ページを参照

小学生：P25, 27 中学生：P59, 60 高校生等：P89）

学校を楽しいと思う児童・生徒の割合は、小学生 91.3%、中学生 89.0%、高校生等 95.9%となっており、9割前後で推移している。

学校で楽しいところは、「休み時間」、「友だちがいること」、「遠足や運動会などの行事」、「クラブ活動・部活動等」が上位にあげられている。「休み時間」と回答する割合は学年が上がるにつれて低くなり、「友だちがいること」は学年が上がるにつれて高くなっている。

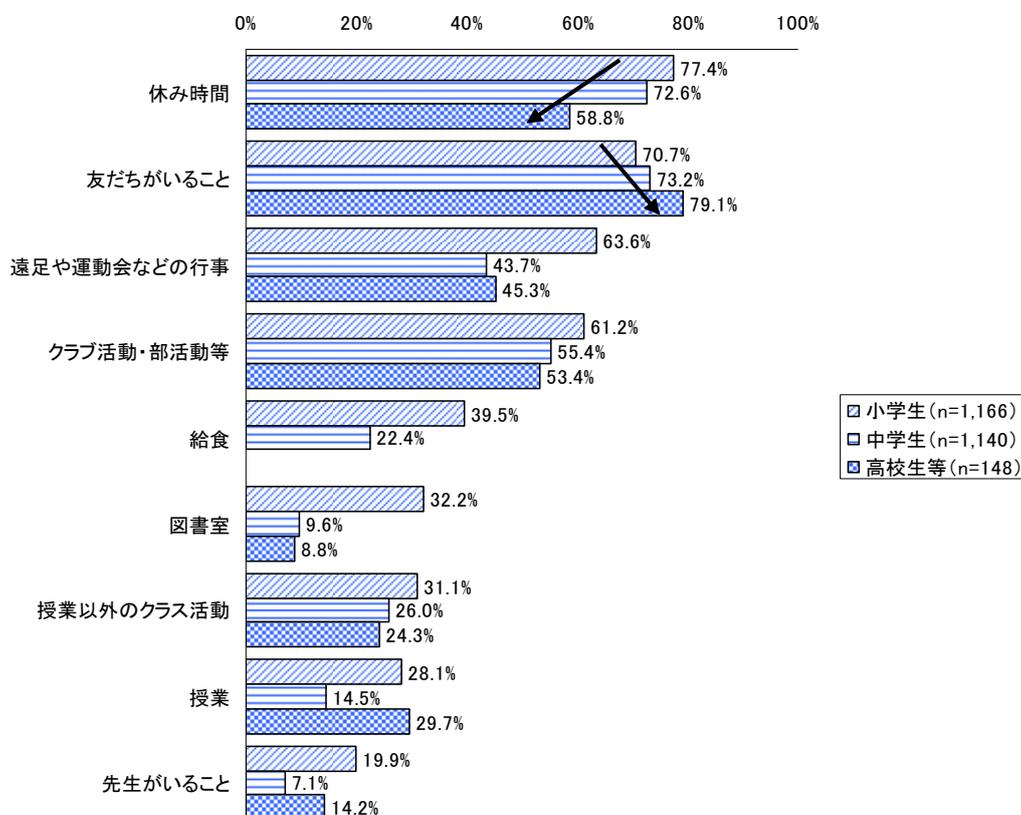
【学校の楽しさ】



※楽しい＝「とても楽しい」＋「まあまあ楽しい」、楽しくない＝「楽しくない」＋「あまり楽しくない」

※高校生等には、「高校生」「短期大学生・高等専門学校生」「専門学校生」「大学生」が含まれる。

【学校で楽しいところ】



※複数回答のため、各回答割合 (%) の合計は 100% とならない

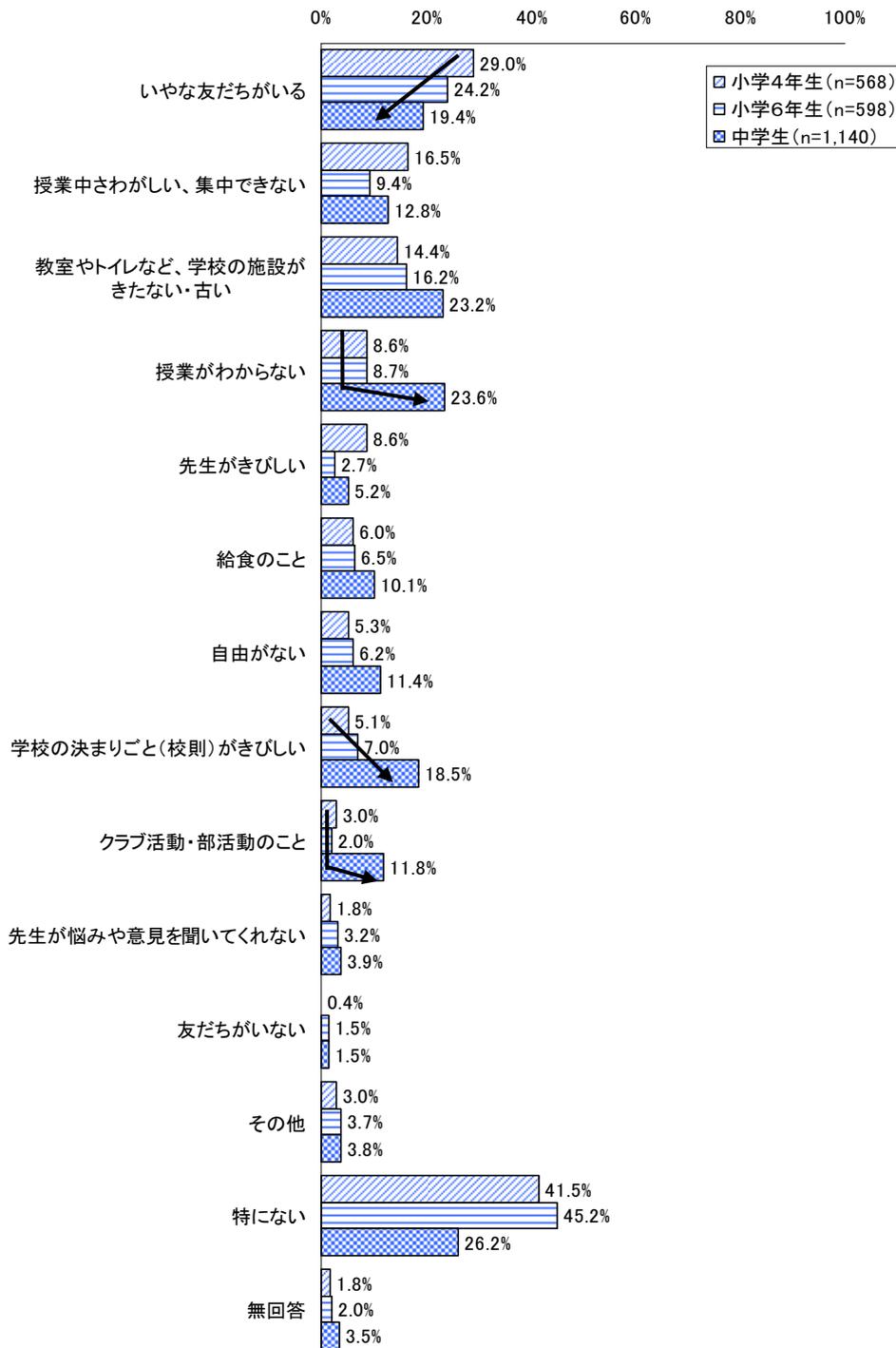
※「給食」は小学生及び中学生調査のみの選択肢である。

2 学校で困っていること（小学生・中学生）

（詳細は P28, 61 参照）

学校で困っていることが「特にない」のは、小学4年生 41.5%、小学6年生 45.2%、中学生 26.2% となっており、小学生の約半数、中学生の約7割は何らか困っていることがあると回答している。

困っていることの上位には、「いやな友だちがいる」、「授業がさわがしい、集中できない」、「教室やトイレなど、学校の施設がきたない・古い」、「授業がわからない」等があげられている。「いやな友だちがいる」と回答する割合は学年が上がるにつれて低くなり、中学生になると「授業がわからない」、「学校の決まりごと（校則）がきびしい」、「クラブ活動・部活動のこと」の割合が高くなっている。



※複数回答のため、各回答割合(%)の合計は100%とならない。

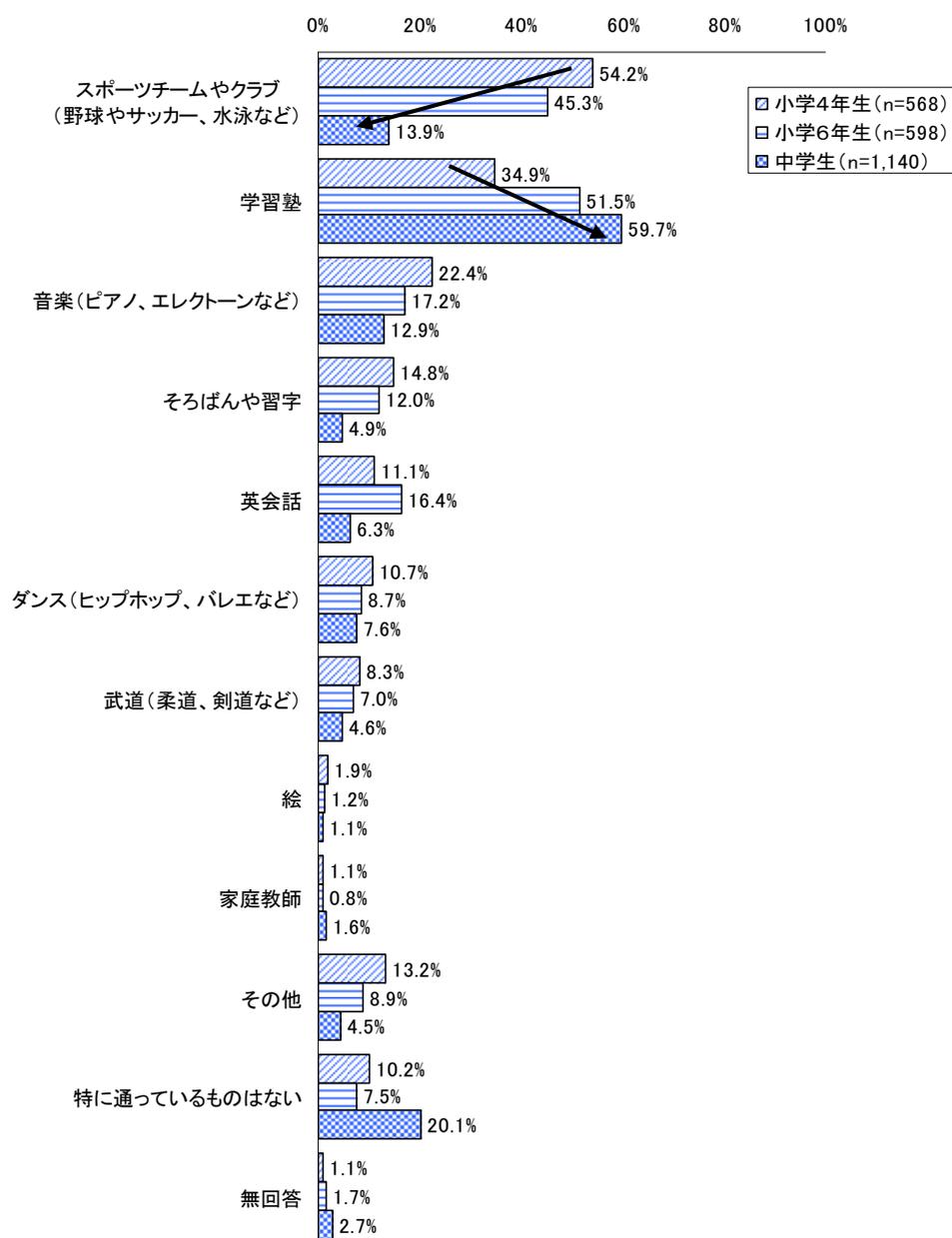
3 通っている塾や習い事（小学生・中学生）

（詳細は P32, 65 参照）

小学生の約9割、中学生の約8割は何らかの習い事に通っている。小学4年生では「スポーツチームやクラブ（野球やサッカー、水泳など）」が最も多いが、学年が上がるにつれて割合は低下し、「学習塾」に通う割合が高くなっていく。中学生では59.7%が「学習塾」に通っていると回答している。

	小学4年生(n=568)	小学6年生(n=598)	中学生(n=1,140)
習い事をしている割合	88.7%	90.8%	77.2%

※「習い事をしている割合」は、「特に通っているものはない」と「無回答」を除いた割合。

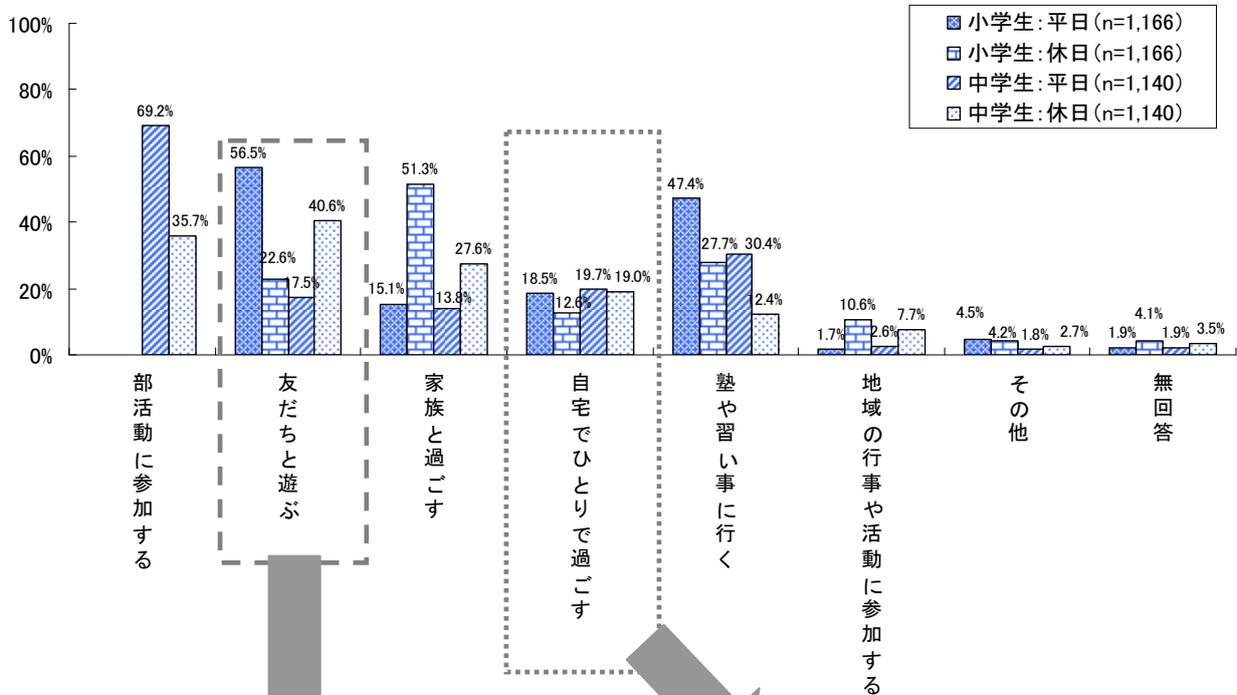


※複数回答のため、各回答割合(%)の合計は100%とにならない。

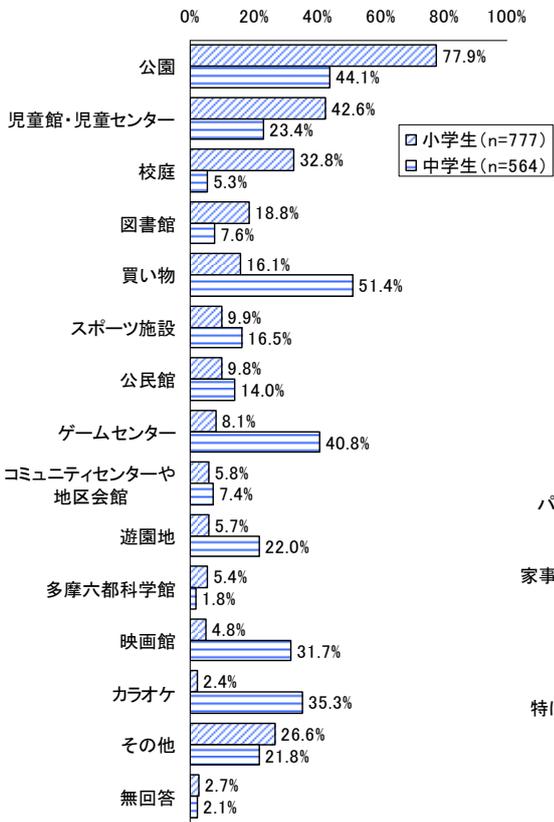
4 学校以外の過ごし方（小学生・中学生）

（詳細は、小学生：P34～36, 中学生：P67～69 参照）

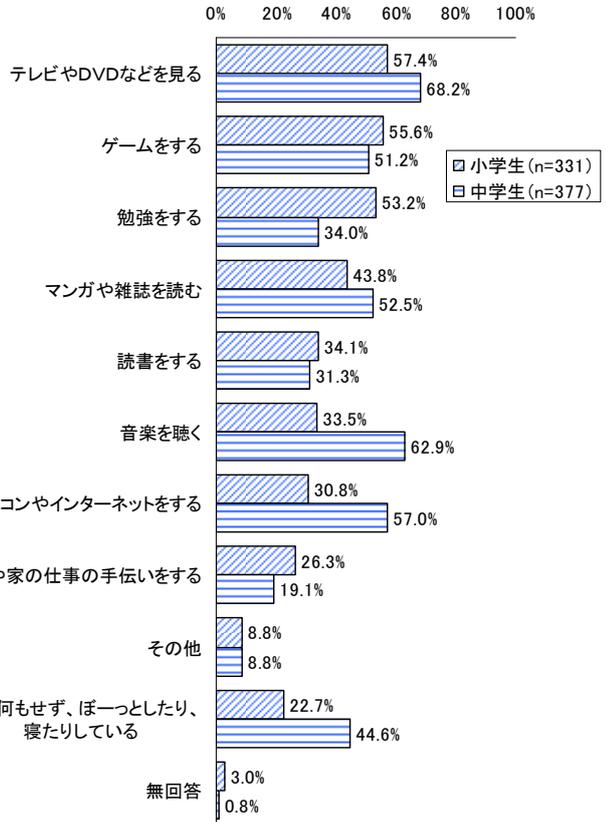
平日の学校以外の過ごし方は、小学生では「友だちと遊ぶ」、「塾や習い事に行く」が多く、中学生では「部活動に参加する」が多い。休日の過ごし方は、小学生では「家族と過ごす」、中学生では「友だちと遊ぶ」、「部活動に参加する」が多い。



友だちと外出するところ



自宅での過ごし方

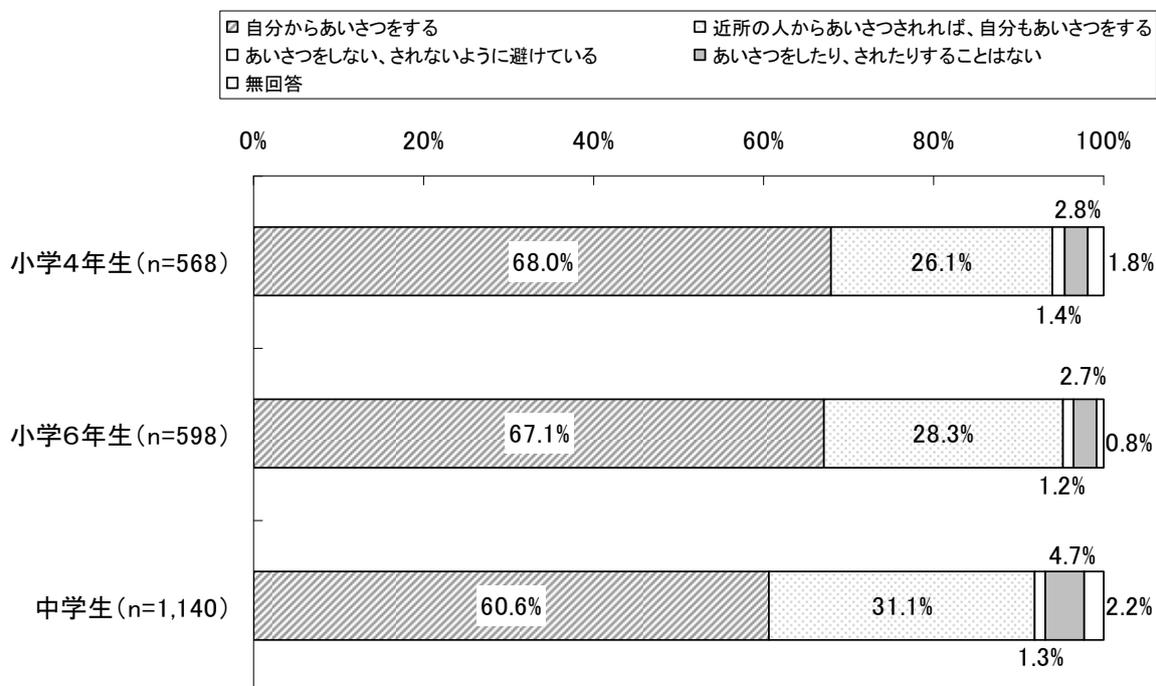


※いずれも複数回答のため、各回答割合(%)の合計は100%とならない。

5 近所の人とのあいさつの程度（小学生・中学生）

（詳細は P43, 76 参照）

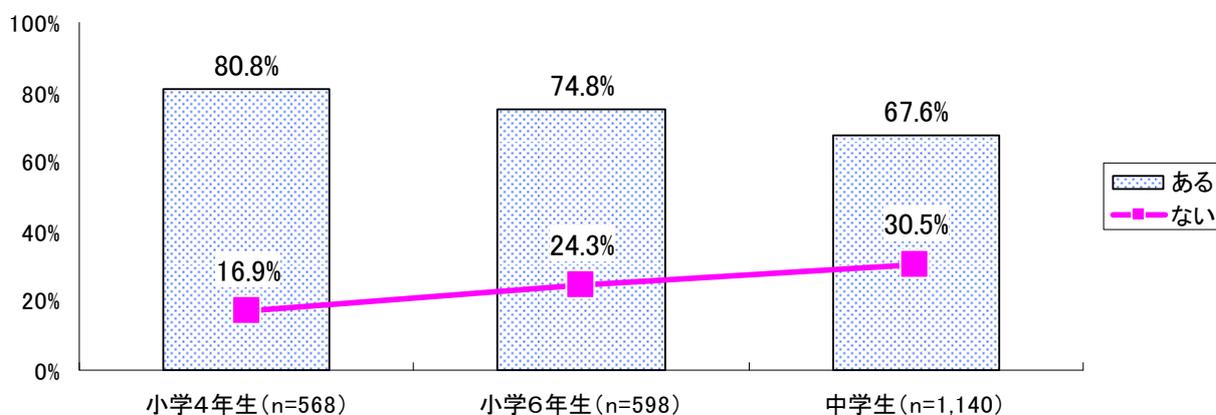
小学生では「自分からあいさつをする」が約7割を占める。一方、中学生では「自分からあいさつをする」のは60.6%と低下しており、「近所の人からあいさつされれば、自分もあいさつをする」割合が31.1%と高くなっている。



6 自分に自信のもてるところ（小学生・中学生）

（詳細は P47, 80 参照）

自分に自信のもてるところが「ある」と回答する割合は、学年が上がるにつれて低下しており、中学生では自分に自信のもてるところが「ない」生徒が3割を占める。

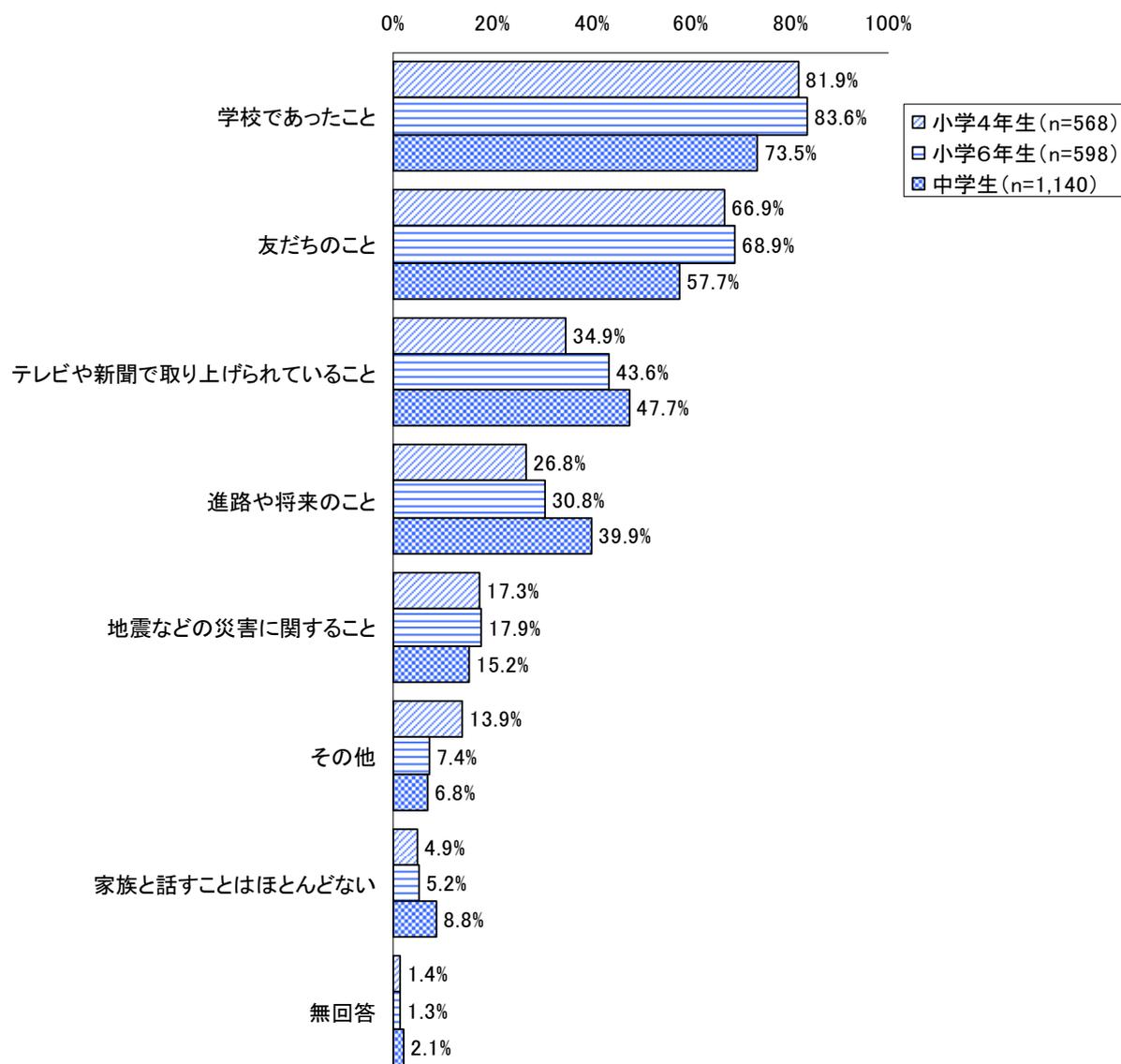


※「ある」＝「あると思う」＋「どちらかといえばあると思う」
 「ない」＝「ないと思う」＋「どちらかといえばないと思う」

7 家族と話す内容（小学生・中学生）

（詳細は P38, 71 参照）

児童・生徒の9割以上は家族と会話をしており、主な内容は「学校であったこと」、「友だちのこと」、「テレビや新聞で取り上げられていること」等である。また、中学生になると「家族と話すことはほとんどない」の割合がやや増加している。

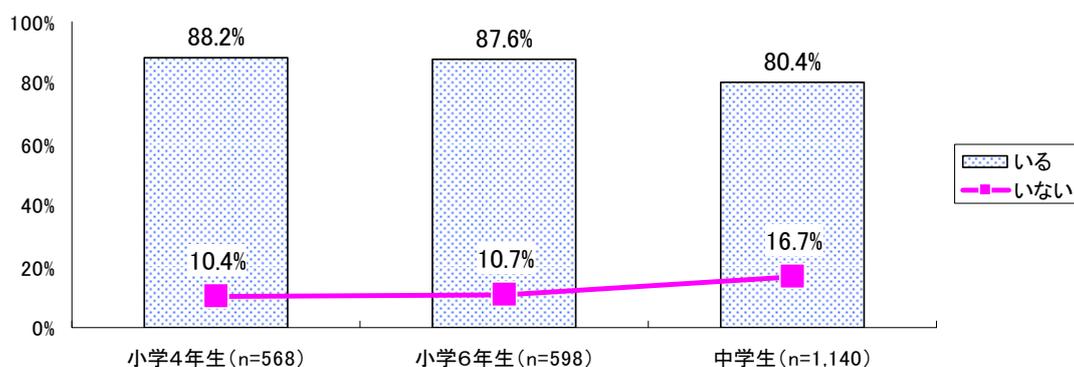


※複数回答のため、各回答割合(%)の合計は100%とならない。

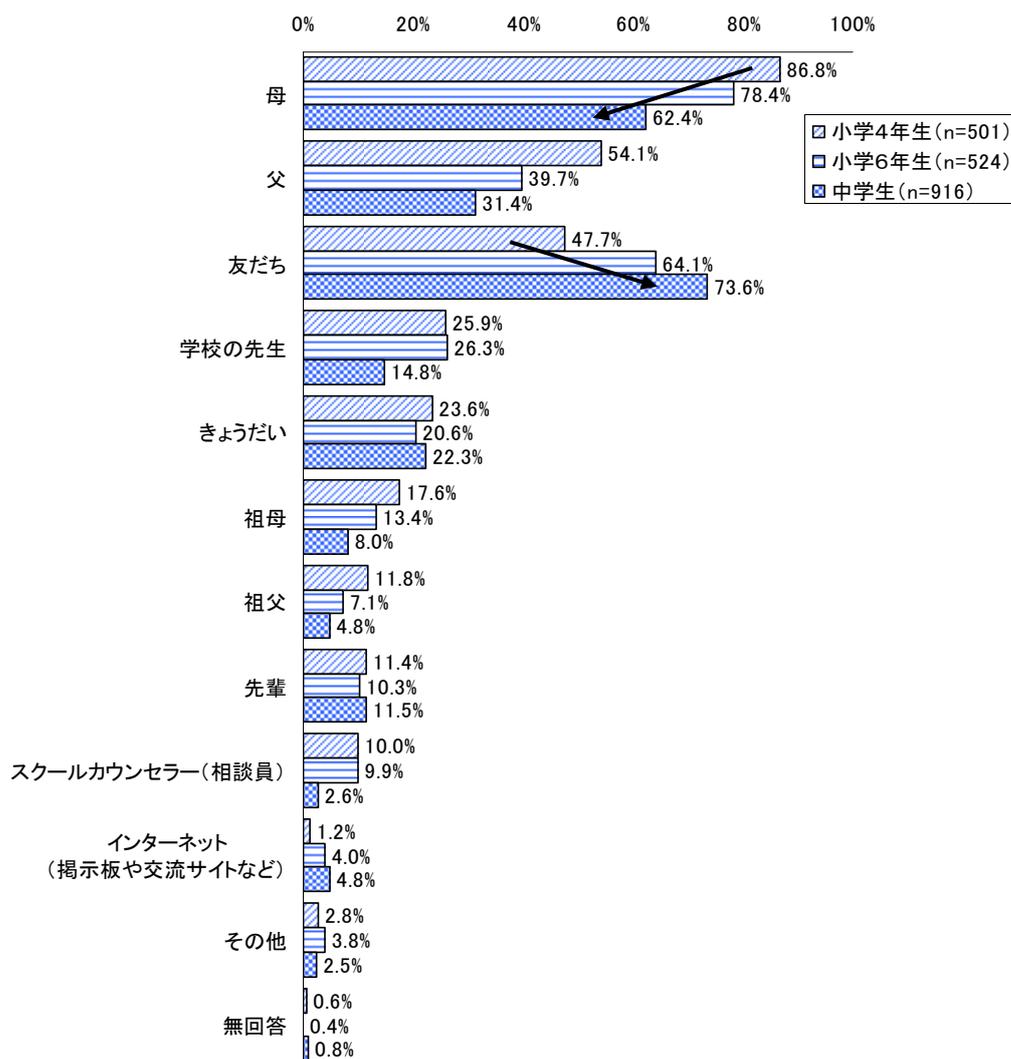
8 相談相手の有無、相談できる相手（小学生・中学生）

（詳細は P45, 46, 78, 79 参照）

小学生の約9割は、いやなことやつらいことがあったときに相談できる人が「いる」と回答している。一方、中学生では相談できる人が「いる」割合は80.4%となっており、小学生よりも低い割合である。相談相手としては「母」をあげる意見が多いが、学年が上がるにつれて「友だち」の割合が高くなっていく。また、「インターネット（掲示板や交流サイト）」に相談するという児童・生徒も、低い割合ではあるが存在する。



相談できる相手



※複数回答のため、各回答割合(%)の合計は100%とならない。

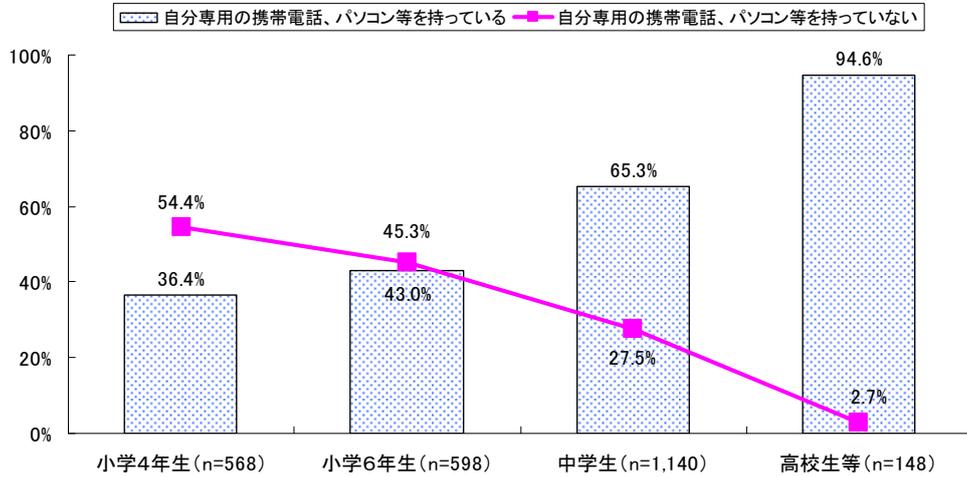
9 携帯電話やパソコンの利用状況（小学生・中学生・高校生等）

（詳細は下記ページを参照

小学生：P40, 41 中学生：P73, 74 高校生等：P105）

自分専用の携帯電話またはパソコン等を持っている割合は、小学生で4割前後、中学生では65.3%、高校生等では94.6%となっている。

1日の使用時間は、平日よりも休日の方が長く、学年が上がるにつれても長くなっていく傾向がある。

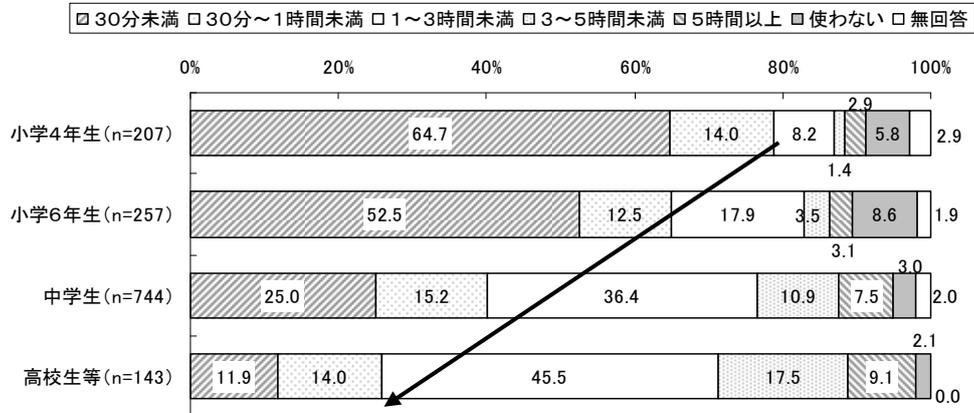


※高校生等には、「高校生」「短期大学生・高等専門学校生」「専門学校生」「大学生」が含まれる。

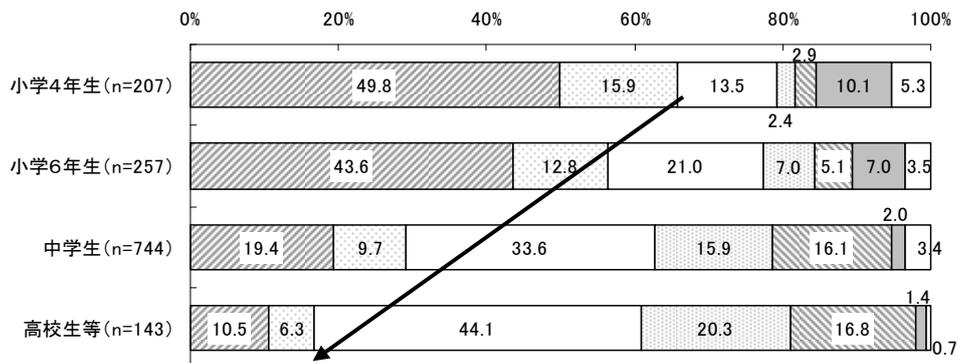
※高校生等では、携帯電話とパソコンのそれぞれについて所持状況を聴取している。

ここでは、自分専用の携帯電話またはパソコンを所持している割合を示す。

平日の使用時間



休日の使用時間



※小中学生の使用時間は、自分専用の携帯電話またはパソコン等を持っている者を対象に集計。

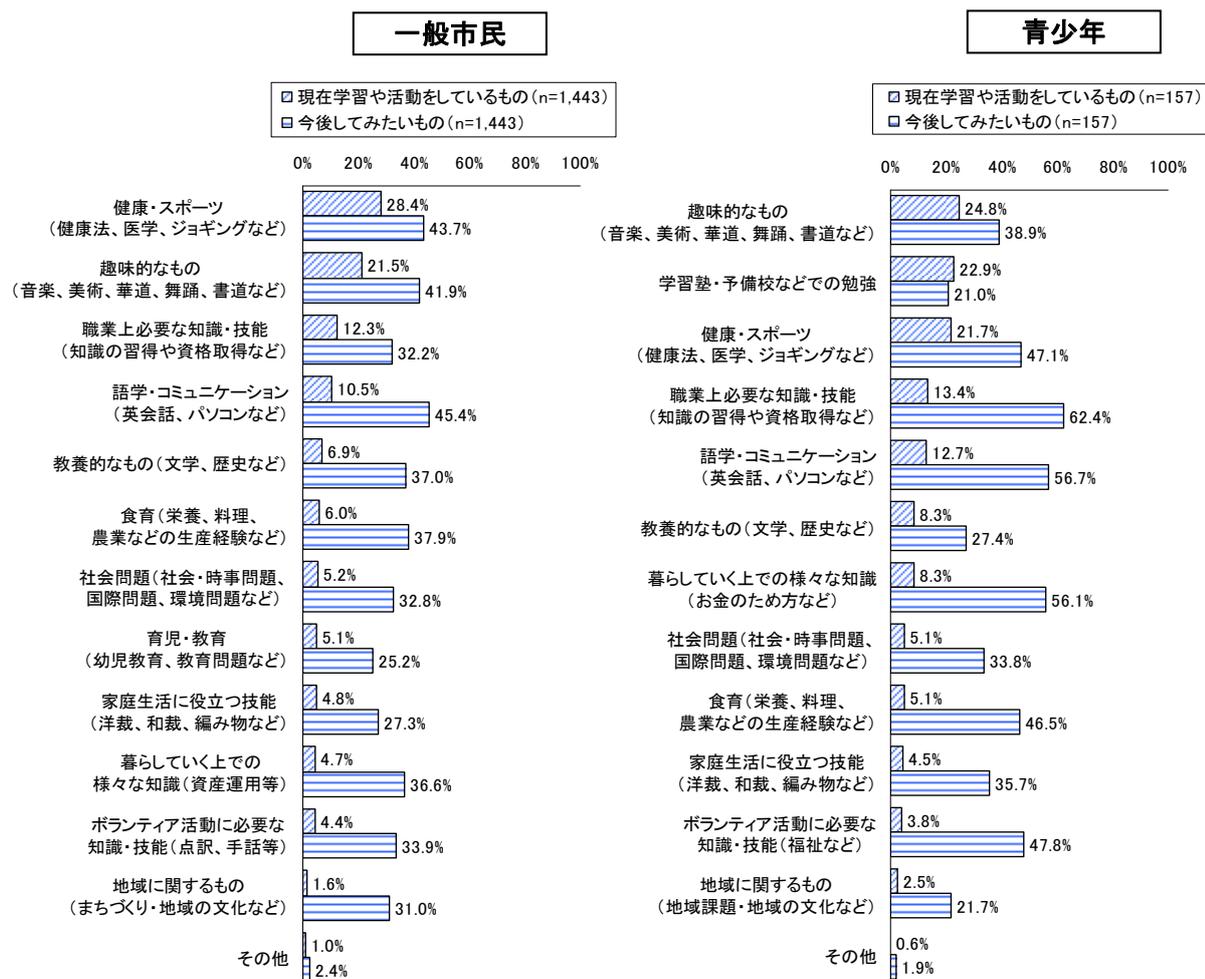
高校生等では、自分専用かどうかを問わず、携帯電話またはパソコン等を持っている者を対象に集計。

10 学習や活動の内容（一般市民・青少年）

（詳細は P93, 112 参照）

現在している学習や活動の内容は、一般市民では「健康・スポーツ（健康法、医学、ジョギングなど）」や「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道など）」が多く、青少年では「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道など）」、「学習塾・予備校などでの勉強」が多い。

青少年は、今後してみたいものとして「職業上必要な知識・技能（知識の習得や資格取得など）」や「語学・コミュニケーション（英会話・パソコンなど）」、「暮らしていく上での様々な知識（お金のため方など）」を上位にあげており、今後社会に出て行く上で必要になると思われる内容を学びたいと考えていることがうかがえる。

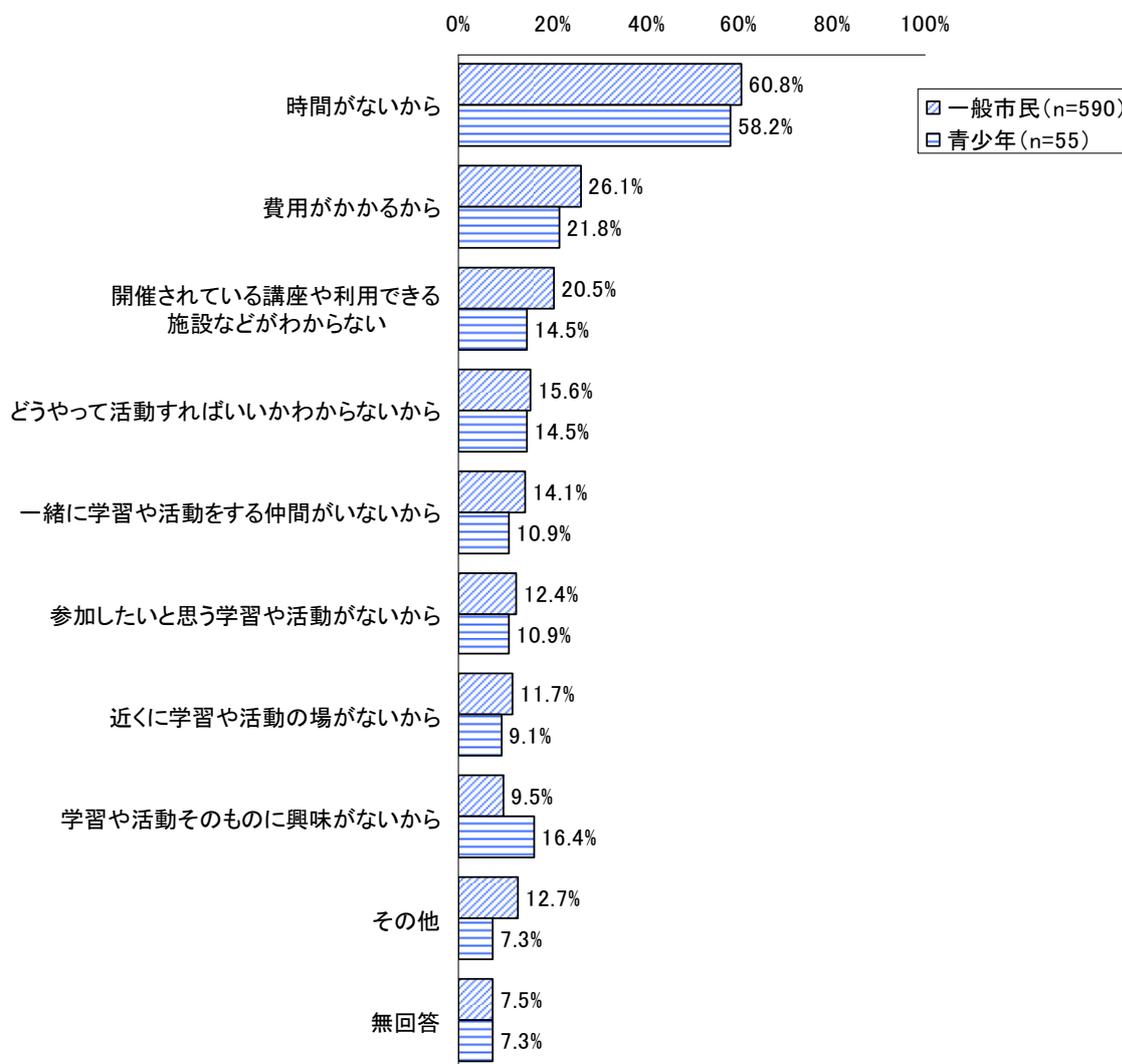


※複数回答のため、各回答割合(%)の合計は100%とならない。
 ※学習・活動の種類の名前は、一部簡略化して記載している。

1.1 学習や活動ができない理由・しない理由（一般市民・青少年）

（詳細は P94, 114 参照）

現在、学習や活動をしていない理由として最も多かったのは「時間がないから」で、一般市民、青少年のそれぞれ約6割を占める。次いで「費用がかかるから」、「開催されている講座や利用できる施設などがわからないから」と続く。

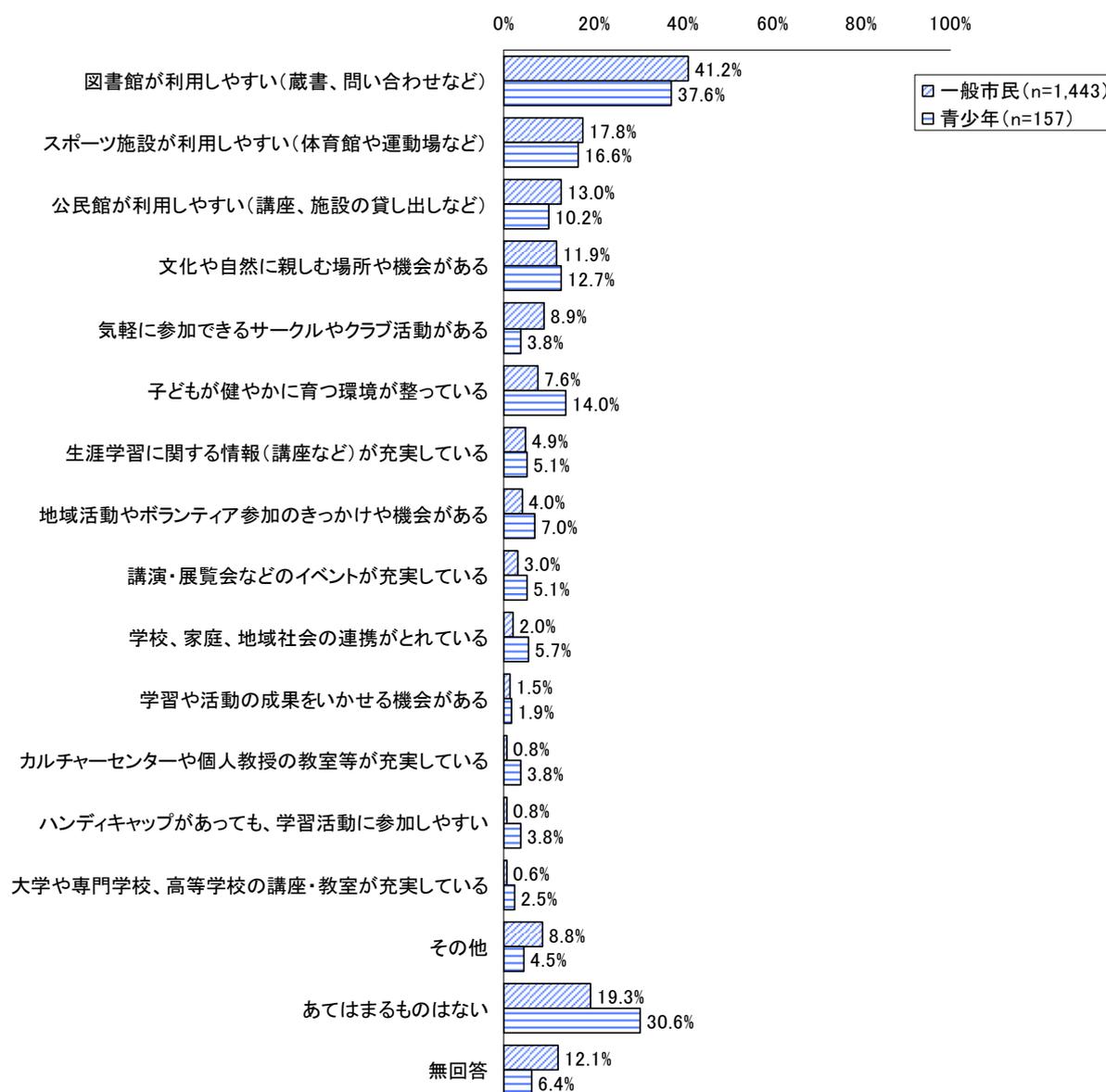


※複数回答のため、各回答割合(%)の合計は100%とならない。
 ※現在学習をしていない人を対象に集計。

1 2 西東京市の学習環境（一般市民・青少年）

（詳細は P95, 118 参照）

西東京市の学習環境としては、「図書館が利用しやすい（蔵書、問い合わせなど）」という意見が約 4 割と最も多い。次いで「スポーツ施設が利用しやすい（体育館や運動場など）」、「公民館が利用しやすい（講座、施設の貸し出しなど）」、「文化や自然に親しむ場所や機会がある」等が続く。

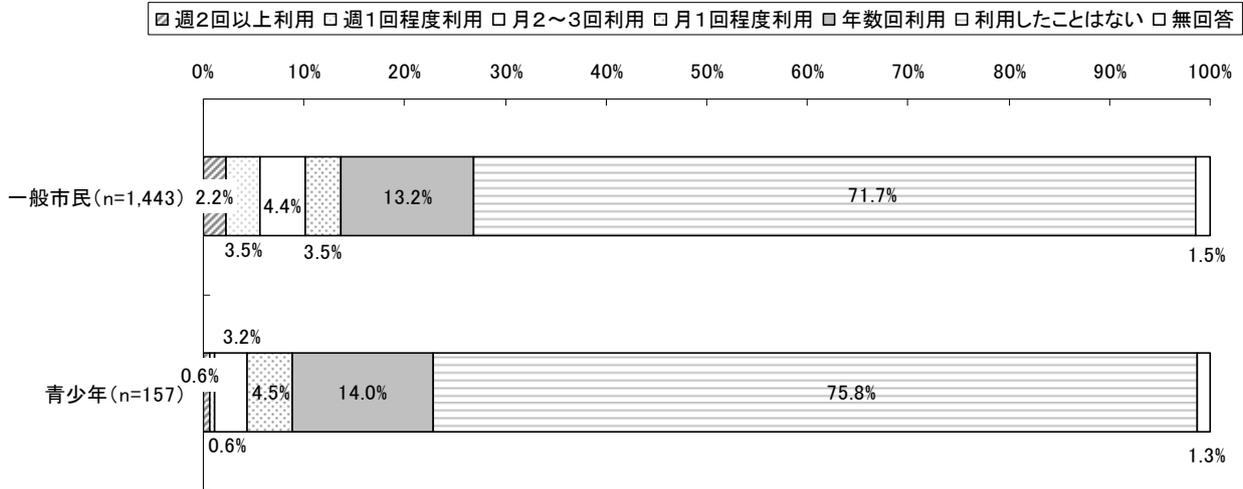


※複数回答のため、各回答割合(%)の合計は 100%とにならない。
 ※選択肢は一部簡略化して記載している。

1 3 公民館の利用状況（一般市民・青少年）

（詳細は P96, 119, 120 参照）

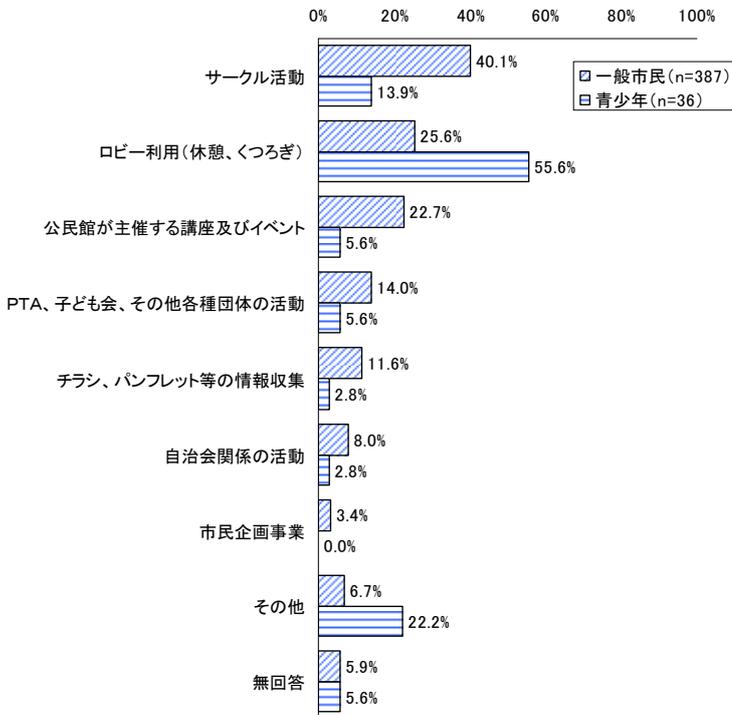
一般市民の 26.8%、青少年の 22.9%は、この 1 年間に公民館を利用したことがあると回答している。利用者の主な目的は「サークル活動」、「ロビー利用（休憩、くつろぎ）」等であり、未利用者は「時間がないから」を利用しない理由にあげている。



※「週2回以上利用」は、実際の調査では「ほぼ毎日利用」「週4～5回利用」「週2～3回利用」として聴取。割合が低いため、まとめて表記している。

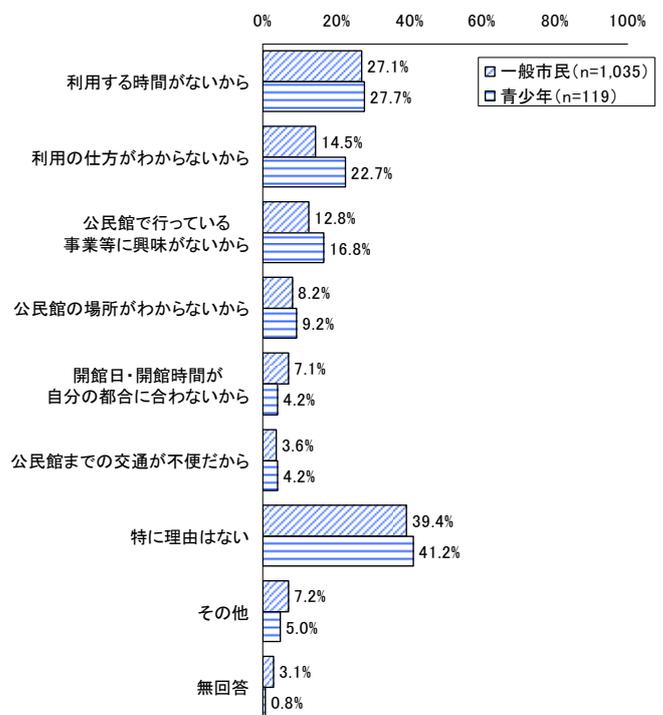
主な利用目的

※公民館利用者を対象に集計



利用しない理由

※公民館未利用者を対象に集計

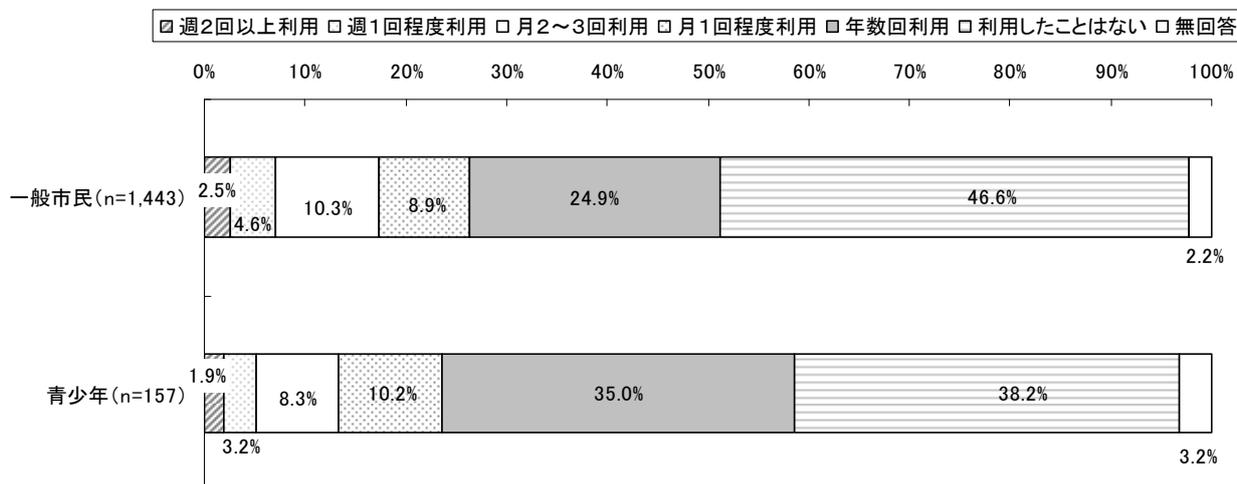


※複数回答のため、各回答割合(%)の合計は100%とならない。

1 4 図書館の利用状況（一般市民・青少年）

（詳細は P97, 98, 122, 123 参照）

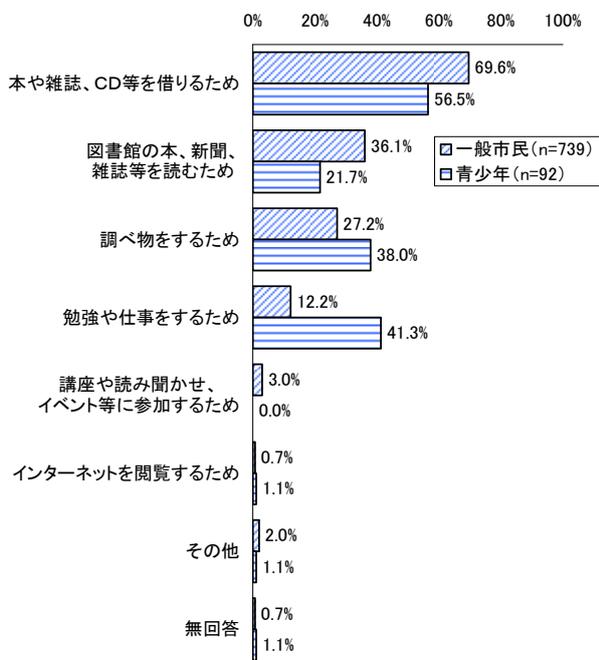
一般市民の 51.2%、青少年の 58.6%は、この 1 年間に図書館を利用したことがあると回答している。利用者の主な目的は「本や雑誌、CD等を借りるため」、「図書館の本、新聞、雑誌等を読むため」等のほか、青少年は「調べ物をするため」、「勉強や仕事をするため」と回答する割合が高い。未利用者は「時間がないから」、「本や雑誌は自分で買うようにしているから」を利用しない理由にあげている。



※「週2回以上利用」は、実際の調査では「ほぼ毎日利用」「週4～5回利用」「週2～3回利用」として聴取。割合が低いため、まとめて表記している。

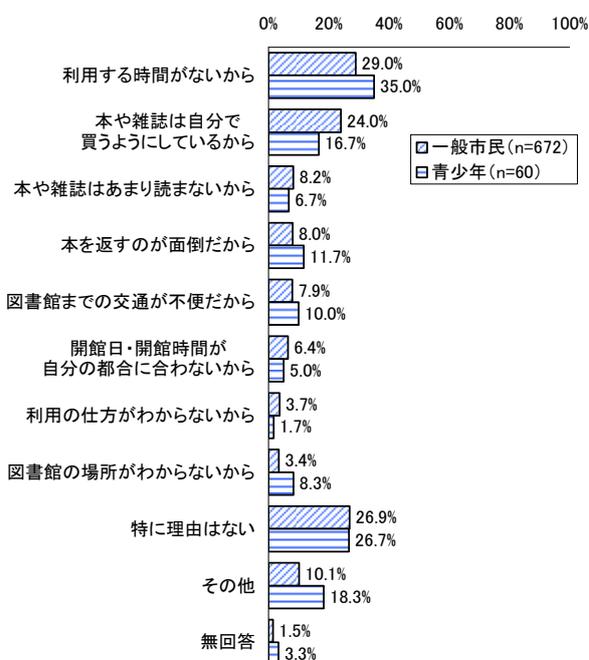
主な利用目的

※図書館利用者を対象に集計



利用しない理由

※図書館未利用者を対象に集計

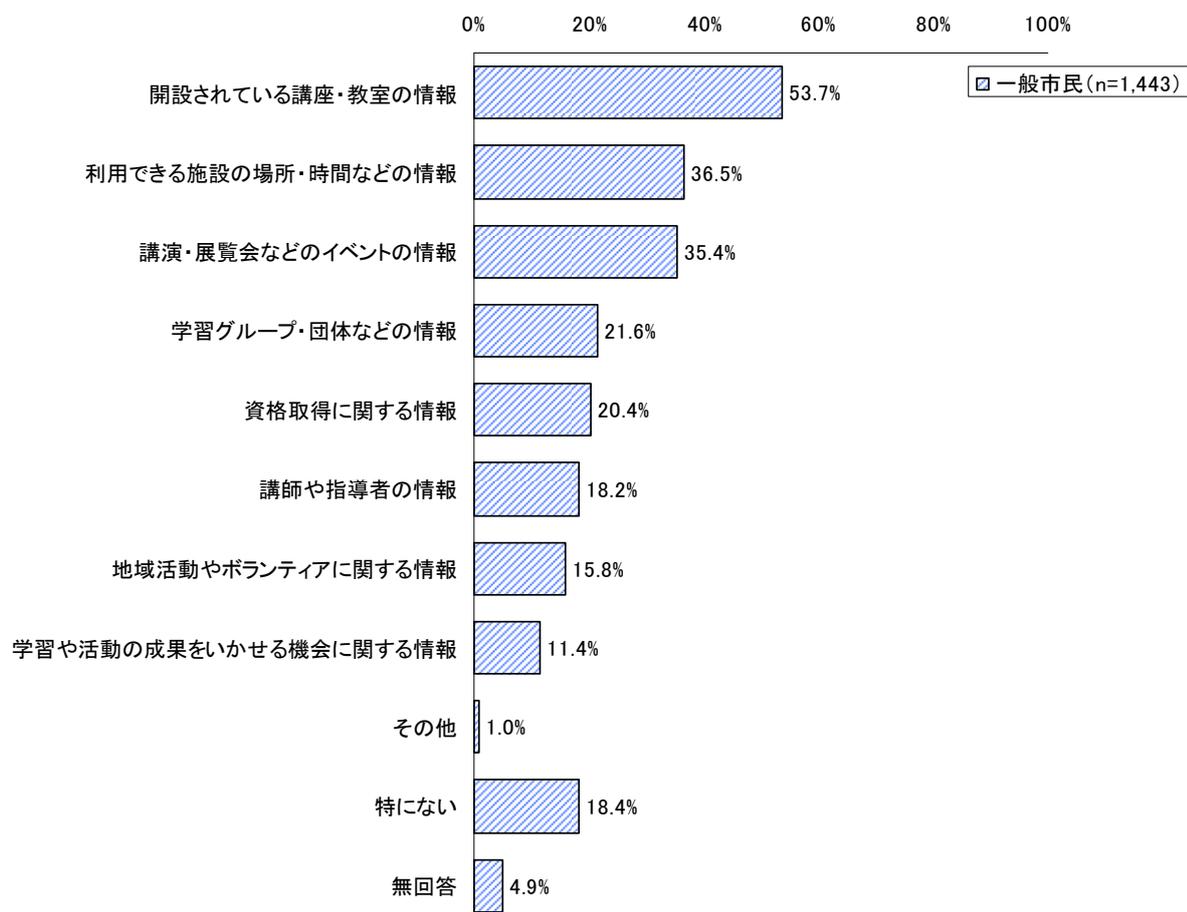


※複数回答のため、各回答割合(%)の合計は 100%とならない。

15 生涯学習に関して知りたい情報（一般市民）

（詳細は P116 参照）

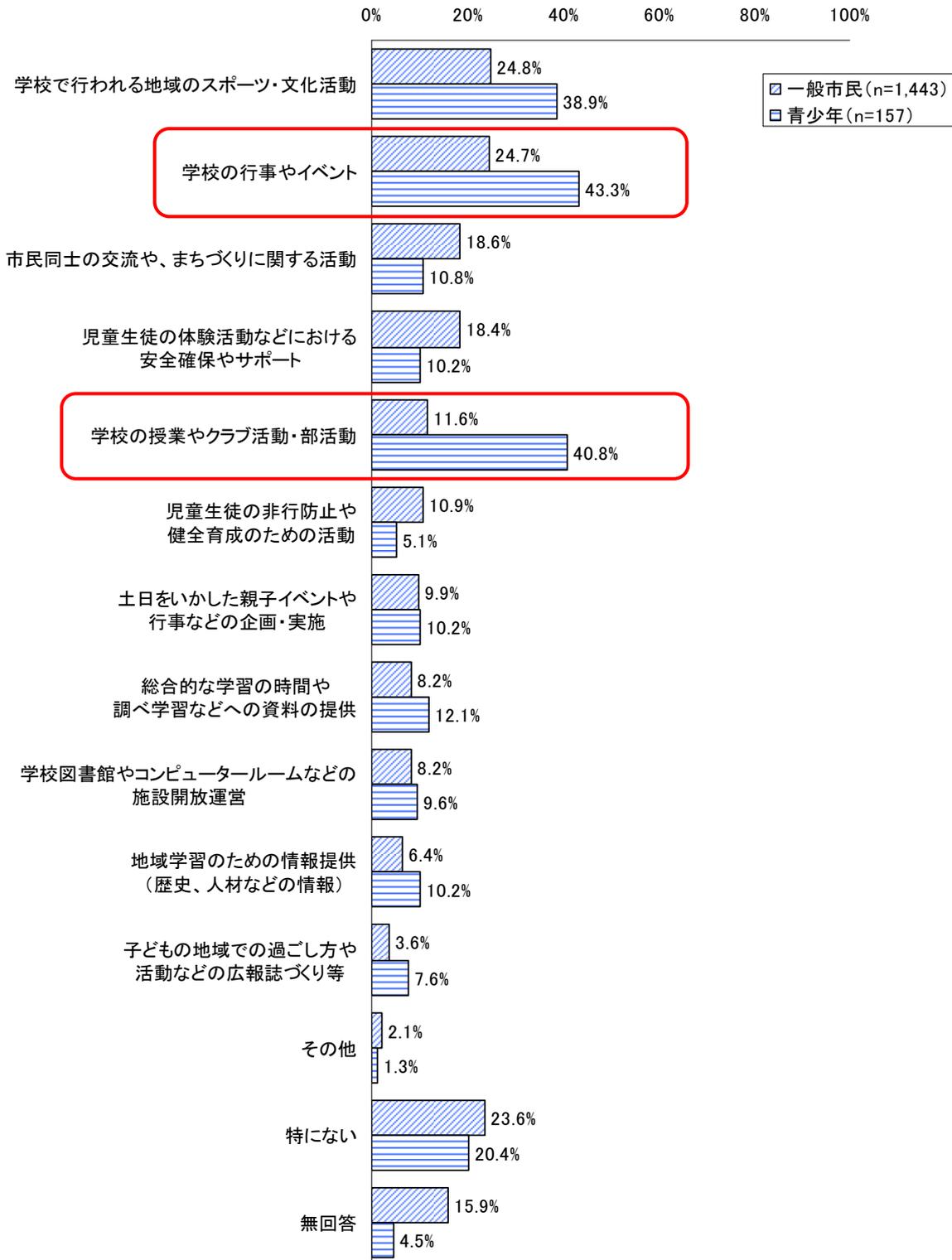
生涯学習に関して知りたいこととしては、「開設されている講座・教室の情報」、「利用できる施設の場所・時間などの情報」、「講演・展覧会などのイベント情報」等があげられており、どこに行けば何を学ぶことができるのか、市民への周知が十分でないことがうかがえる。



16 地域・社会活動への参加意向（一般市民・青少年）

（詳細は P101, 127 参照）

参加・協力してもよいと思う活動としては、「学校で行われる地域のスポーツ・文化活動」、「学校の行事やイベント」、「市民同士の交流や、まちづくりに関する活動」、「児童生徒の体験活動などにおける安全確保やサポート」等が上位にあげられている。青少年においては、「学校の行事やイベント」、「学校の授業やクラブ活動・部活動」等の学校に関わる活動への参加意向が高い。

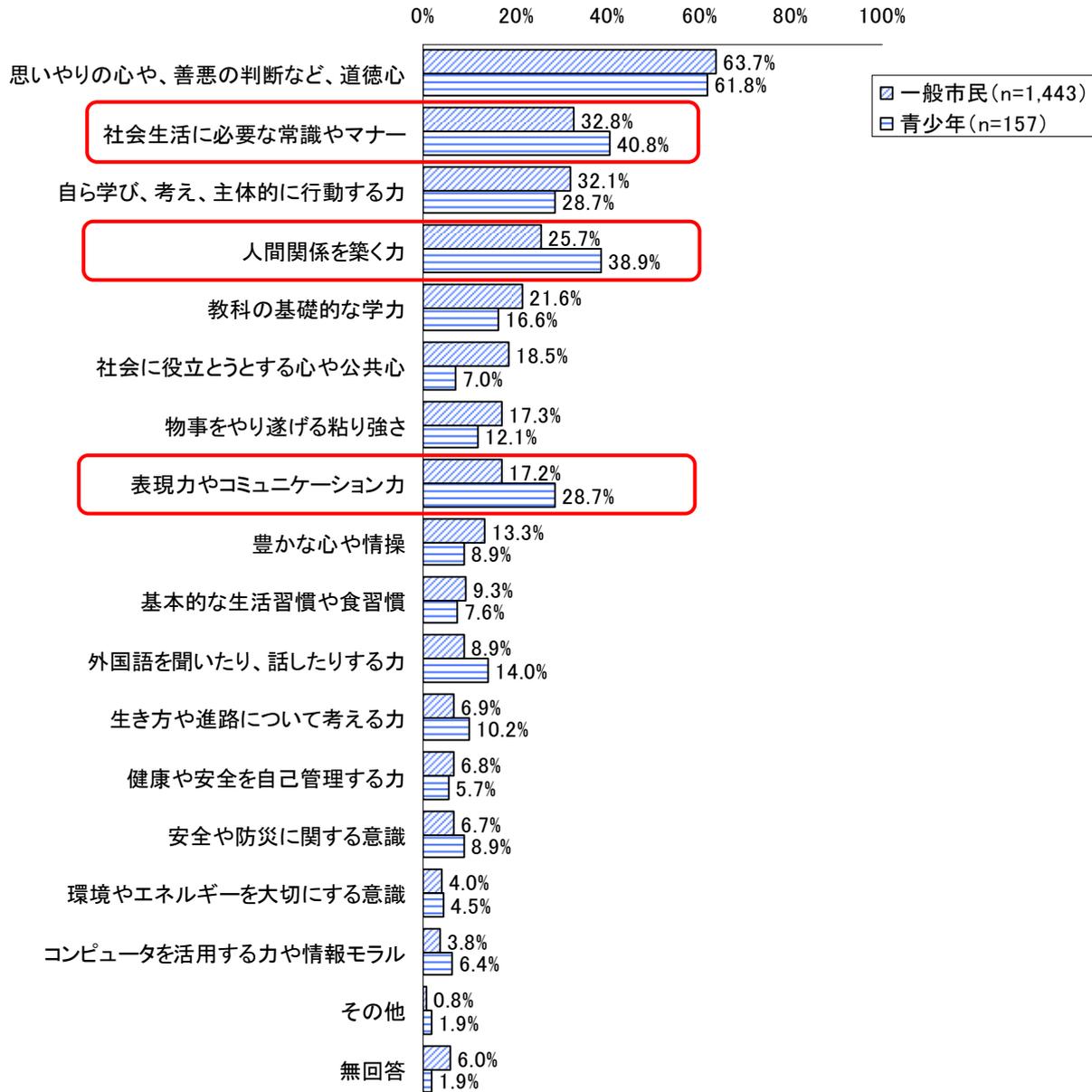


※複数回答のため、各回答割合(%)の合計は100%とならない。
 ※選択肢は一部簡略化して記載している。

17 小学校・中学校で教えることで重要なこと（一般市民・青少年）

（詳細は P103, 132 参照）

小学校・中学校で教えることで重要なことは、「思いやりの心や、善悪の判断など、道徳心」、「社会生活に必要な常識やマナー」、「自ら学び、考え、主体的に行動する力」、「人間関係を築く力」等があげられている。一般市民と比較すると、青少年は「社会生活に必要な常識やマナー」、「人間関係を築く力」、「表現力やコミュニケーション力」等が重要であるという意見が多い。



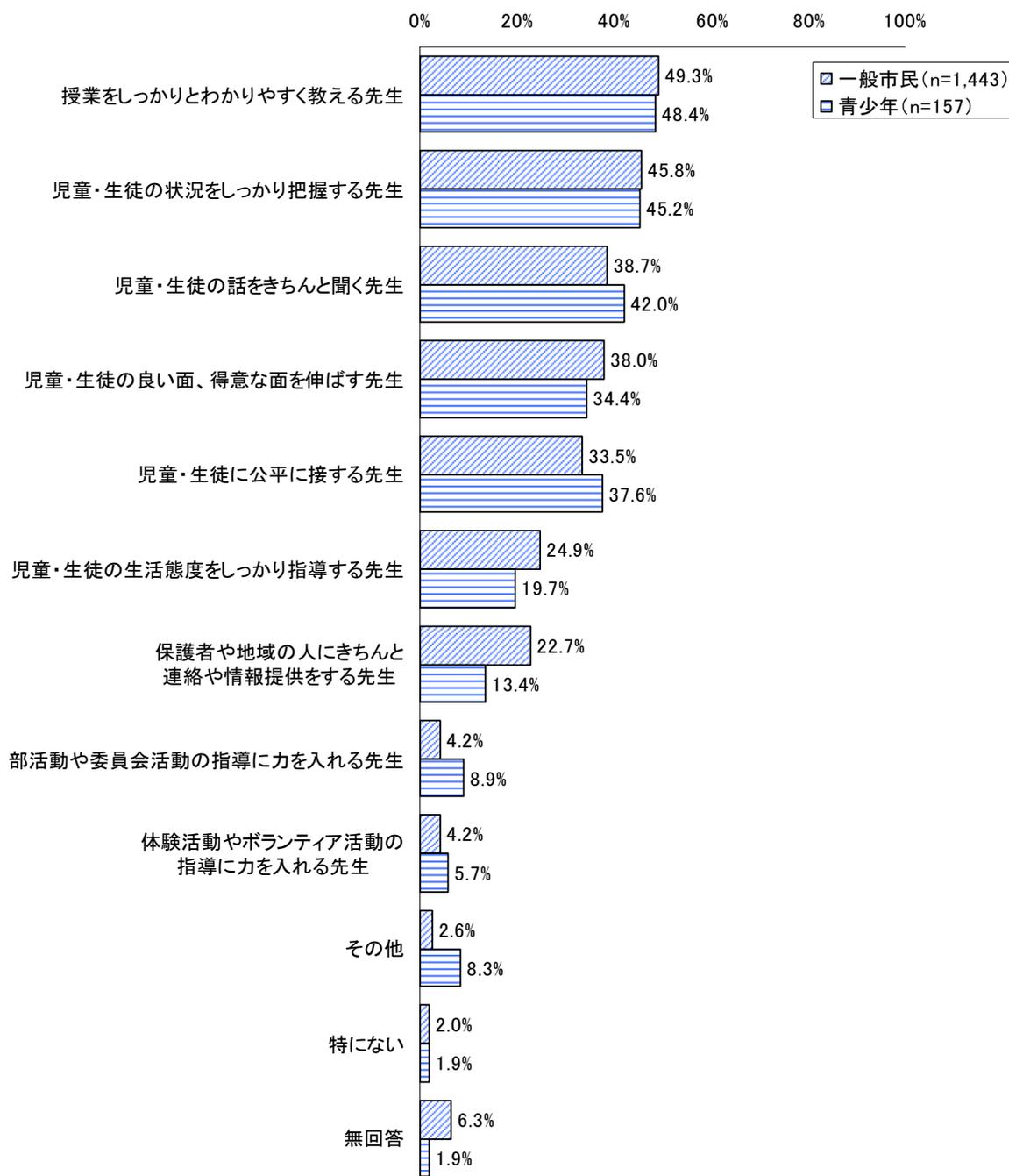
※複数回答のため、各回答割合(%)の合計は100%とされない。

18 望ましい小学校・中学校の教師像（一般市民・青少年）

（詳細は P104, 133 参照）

望ましい小学校・中学校の教師像としては、「授業をしっかりとわかりやすく教える先生」、「児童・生徒の状況をしっかりと把握する先生」、「児童・生徒の話をきちんと聞く先生」、「児童・生徒の良い面、得意な面を伸ばす先生」等があげられている。

一般市民に比べ、青少年は「児童・生徒の話をきちんと聞く先生」、「児童・生徒に公平に接する先生」と回答する割合がやや高い。



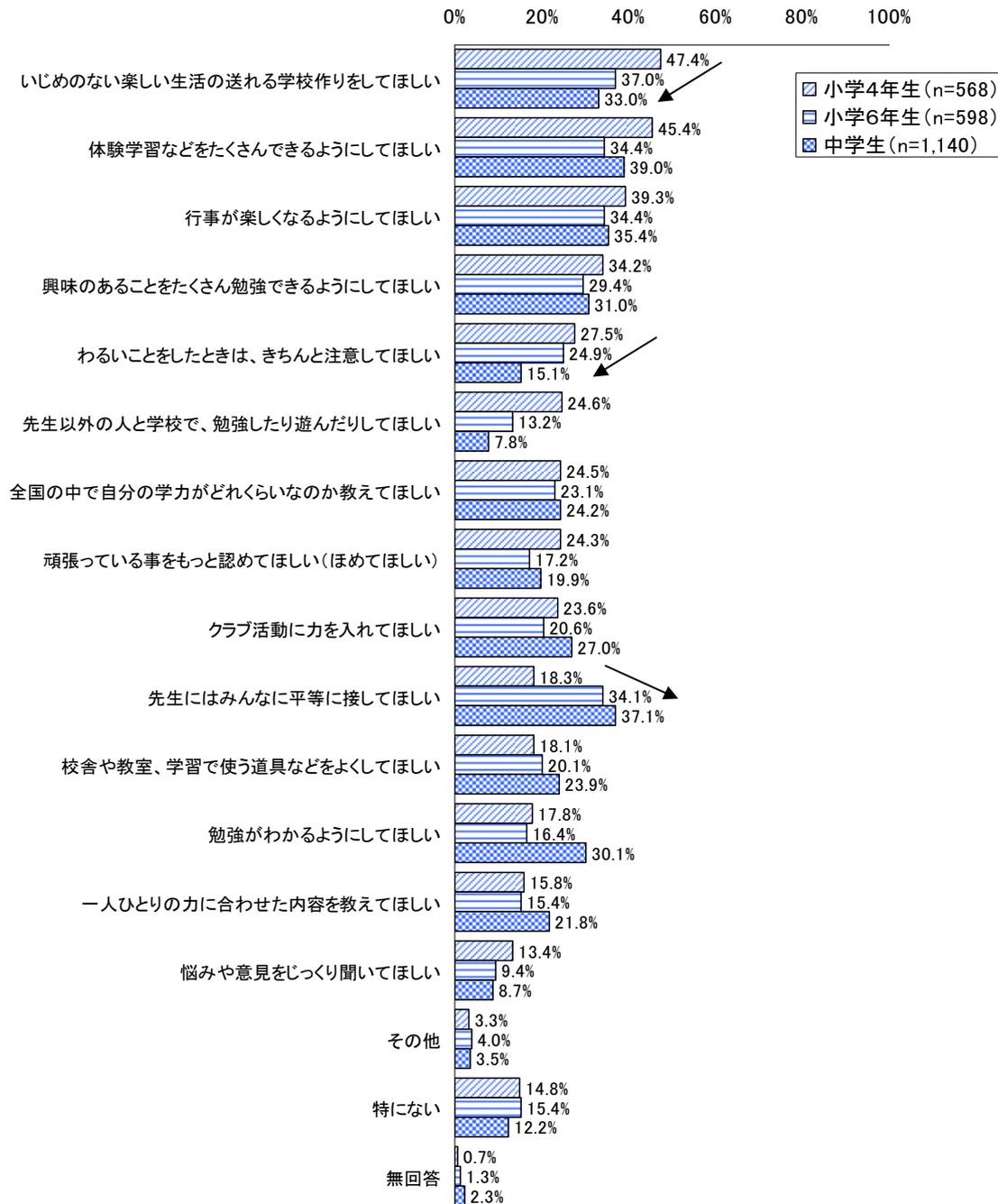
※複数回答のため、各回答割合(%)の合計は100%とならない。
 ※選択肢は一部簡略化して記載している。

学校や先生に望むこと（小学生・中学生）

（詳細は P30, 63 参照）

学校や先生に望むこととしては、「いじめのない楽しい生活の送れる学校づくりをしてほしい」、「体験学習などをたくさんできるようにしてほしい」、「行事が楽しくなるようにしてほしい」、「興味のあることをたくさん勉強できるようにしてほしい」等が上位にあげられている。

学年による違いを見ると、「いじめのない楽しい生活の送れる学校づくりをしてほしい」、「わるいことをしたときは、きちんと注意してほしい」は小学4年生で最も高く、学年が上がるにつれて割合が低くなっている。一方、「先生にはみんなに平等に接してほしい」は学年が上がるにつれて高い割合となっている。

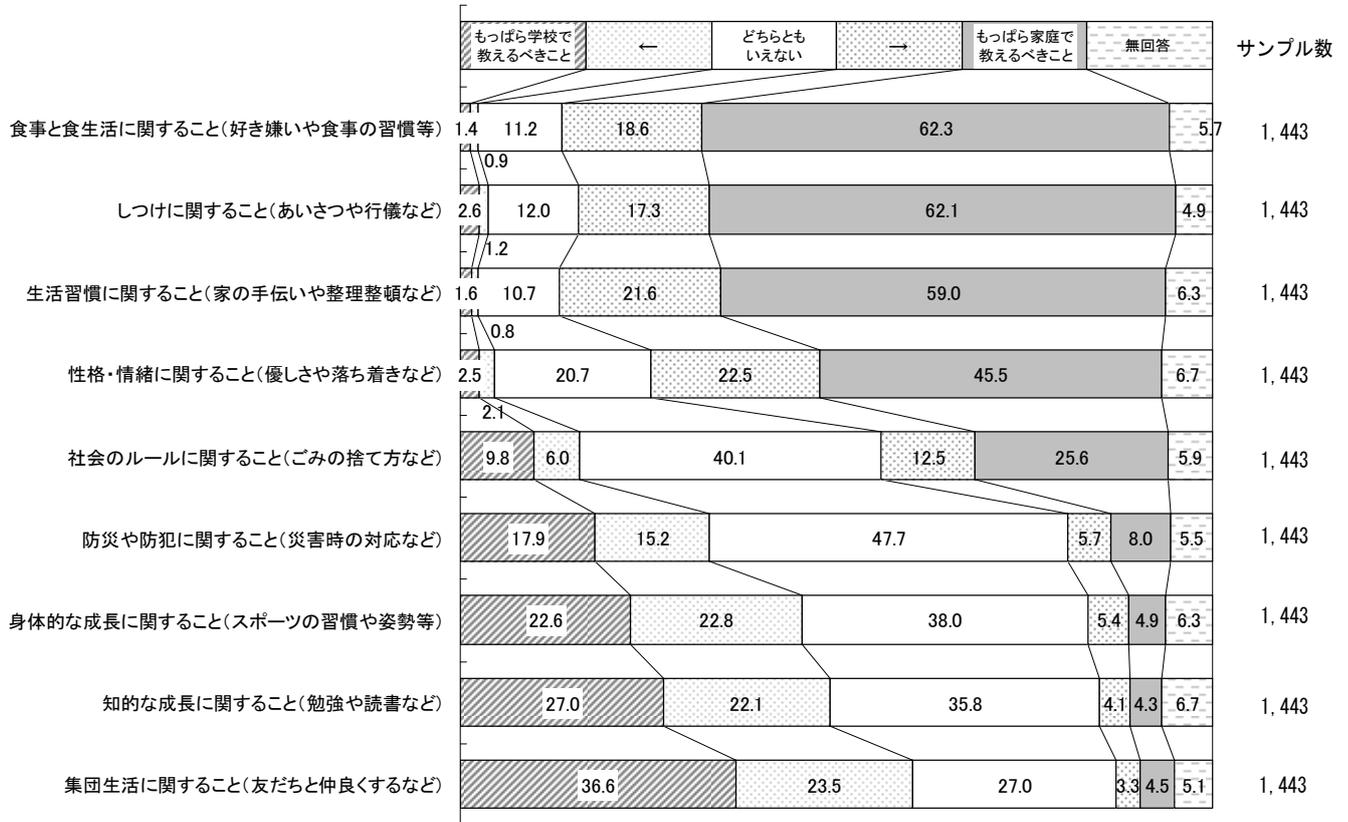


※複数回答のため、各回答割合(%)の合計は100%とならない。
 ※選択肢は一部簡略化して記載している。

19 学校と家庭の役割（一般市民）

（詳細はP129 参照）

食生活やしつけ、生活習慣等に関しては、もっぱら家庭で教えるべきであるという意見が多く、集団生活や学業面・身体面での成長等に関しては、もっぱら学校で教えるべきであるという意見が多い。

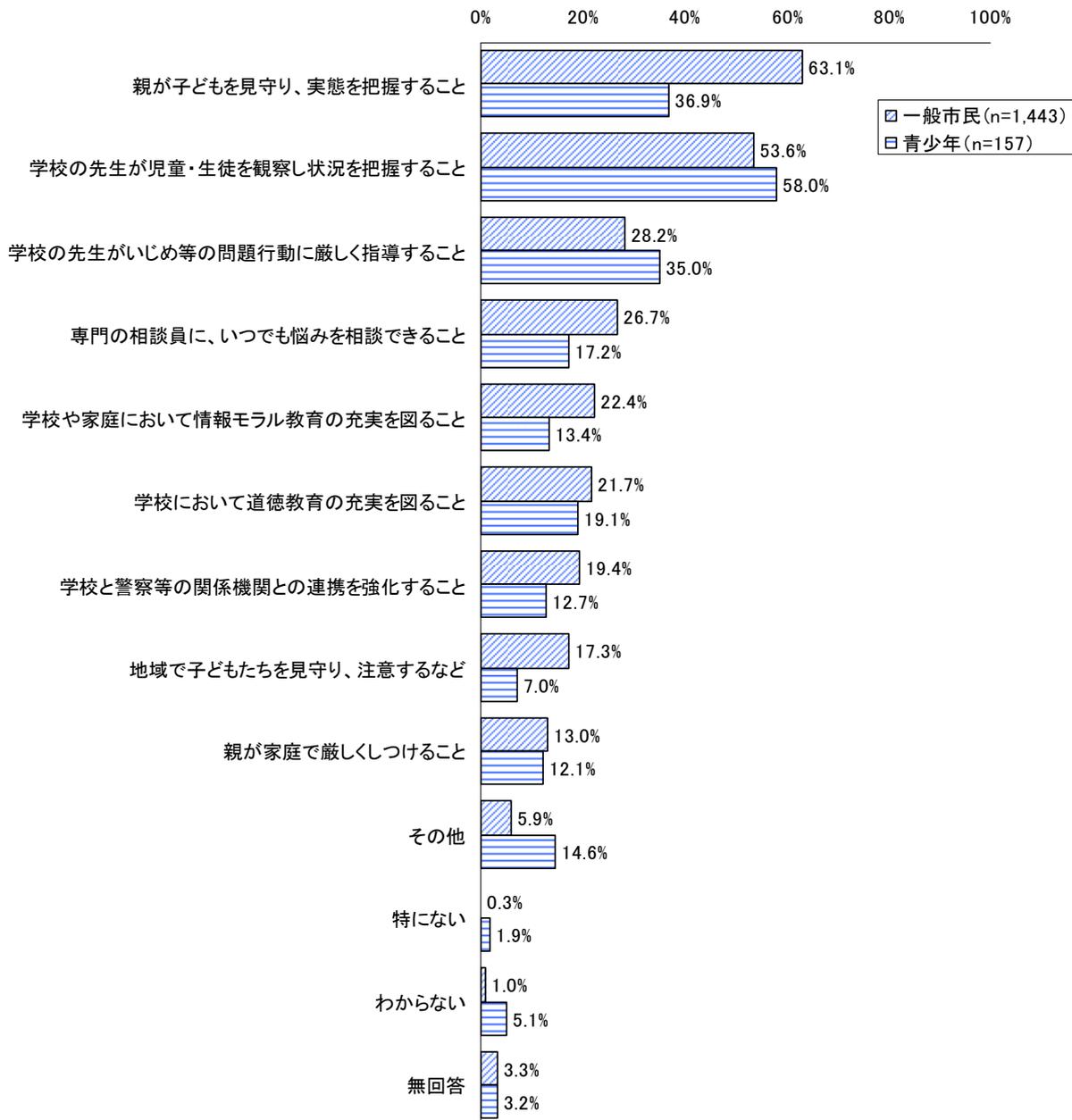


※選択肢は一部簡略化して記載している。

20 いじめや不登校防止のために必要な対策（一般市民・青少年）

（詳細は P107, 136 参照）

いじめや不登校防止のために必要なこととして、一般市民は「親が子どもを見守り、実態を把握すること」と回答する割合が最も高い。一方、青少年は「学校の先生が児童・生徒を観察し、状況を把握すること」、「学校の先生がいじめ等の問題行動に厳しく指導すること」と回答する割合が高く、学校内で教師が対策にあたることが重要だととらえている。



※複数回答のため、各回答割合(%)の合計は100%とならない。
 ※選択肢は一部簡略化して記載している。